

成年向け同人誌  
深田拓士個人誌

Concept by ぱるりんて



夢

87

惡夢回廊



あ…

はあ…



でツでも…



手が勝手動いて…

はああ…  
いッいけないわ  
こんな事してちや  
私…



あッ!!



はあ…

止まらない～ッ!!



もう我慢  
出来ない……

私の身体……  
一体どうしちやつたの?

駄目エ  
感じちやう〜ン

んんッ♥



はああ

気持ち良過ぎて

何も考えられなくなつちやうへ

オマンコジンジンして  
とつても気持ちいいのオ♡







だツ駄目エツ

嫌よツ!!







もつともつと感じさせて  
あげますよ

凛さんが使っていた  
モノより素敵な  
蟲でね？

ウフフ  
可愛いでしょ？

この蟲達の体液って  
とっても気持ちよくなれるんですよ

フフフ…





凛さん：  
私のオマンコも  
舐めてください

二人で一緒に気持ち  
よくなりましょう



凛さんの舌と指で  
私の尻穴とオマンコ犯して



株ツ

アタシもうイツちゃうくツリ！

Aka

Aka EX!!

イツちゃうの おツ!!









何故?  
身体が言う事を利かない上に  
声も出ないなんて…

ああ嫌ッ  
そんな事されたら  
私：

もしかして痴漢される事を  
期待していたのかな？

もう下着まで滲み出す位  
グツショリじやないか

はあッ

ん…



このままじゃまた…  
おかしくなっちゃう

お…お願い…です  
ゆ…許して…

はああ…





へへへ思つた通り  
いやらしいマンコして  
るじやねえか

ああッ  
黙田 エー



ン  
ン  
ン  
ン

いツ嫌あ  
そんな処  
抜けないでエ

ヒヒヒ嬢ちゃん敏感だな  
マン汁がどんどん溢れて来て  
ビショビショじやねえか



ホラ尻をもつと

上げろよ



こんなにマンコをヒクつかせて  
そんなにチンポを挿入いれて  
欲しかったのか？





熱い精液が私の  
股中に流れ込んで來てる

ワリイワリイ

あんまり良過ぎてつい膣中に  
射精しちまつた

まさかこれだけの事していく  
バレないと思っていたのか？

良かつたこれで  
もう……

そんなに良かつたのなら  
俺達もアンタの相手を  
してやるぜ

え？

バスの中で  
Hしちまう様な  
淫乱娘だ……

ククク：

この程度で満足出来る  
訳無いよな？



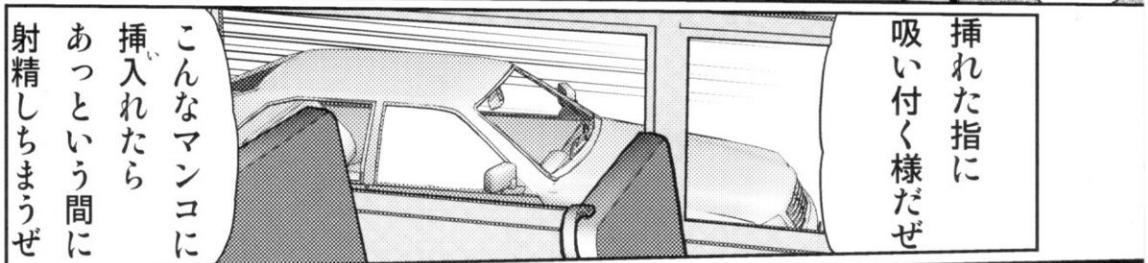
嫌アアツ!!

見ろよ膣中出し精液が  
穴から溢れ出して來てるぜ

嫌アア…

ぬるあら

そんな処見ないでエ：



ホラもつと  
気合いを入れて  
しやぶれよ



あッああ…

もう許して…

いツ嫌ア許してエ…



これ以上深く入れられたら  
本当に私おかしく  
なっちゃう…

ホラ見てみな先っぽが  
ズブズブって刺さつて行くぜ



おかしくなっち  
まえよッ!!

はああッ!!





コイツ尻の穴も

最高に具合いいいぜッ





オラ子宮を  
精液で満タンに  
してやるぜッ

し、死んじやう  
私死んじやうーッ

はああッ

ヒュウ  
ヒュウ

ヌホツ

ヒュウ  
ヒュウ





本の途中ではありますが都合により後書きです（笑）

え～今回の本はご覧になれば皆さん予想出来たとは思いますが本来2冊の本になる筈だったんですが、作業スケジュール等の問題で結局一冊にまとめる事になってしまいました（そう言えば去年の冬の本も複数発行を目指した本を1冊にまとめたな--;）

後半部は以前実験した2色刷りをもう一度試してみて  
て夏以降に少しずつやっていた原稿を収録してみました。  
こういう個人的な実験が出来るのも同人誌の楽しみだとは  
思うのですがね？

原稿をある程度描いたところで他のネタにも目移りしたり（しかし新しく描き直すには時間無し）と我ながら何をやってるんだかと言う状況でして毎度の事ながら時間が欲しいですやりたい（描きたいまたは試したい）事はまだまだありますしね？（＾＾；）

とりあえずはまだ道は永い様です  
それでは後半をお楽しみください

誌名：F-55

発行：ぱるぶんて

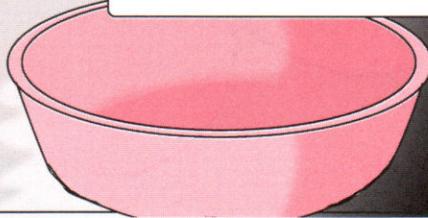
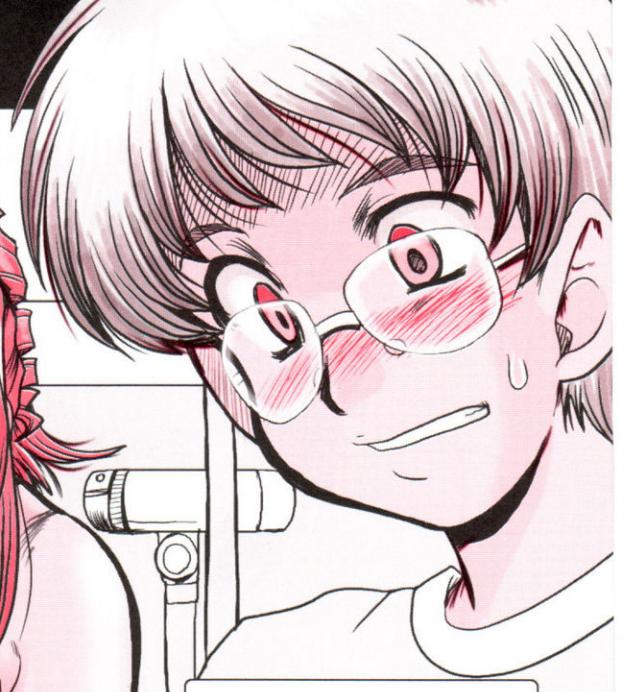
発行日：2006/12/31

URL : <http://www1.kcn.ne.jp/~t-fkd>

address:t-fkd@kcn.ne.jp

# 泡姫

ブレイトチャ一



「ご主人様お帰りなさいませ」  
帰宅した僕を待っていたのはバスタオル姿の  
先生だった。

「せ、先生その姿は一体なんのつもり？」  
軽い目眩を感じながら僕は先生に質問した。

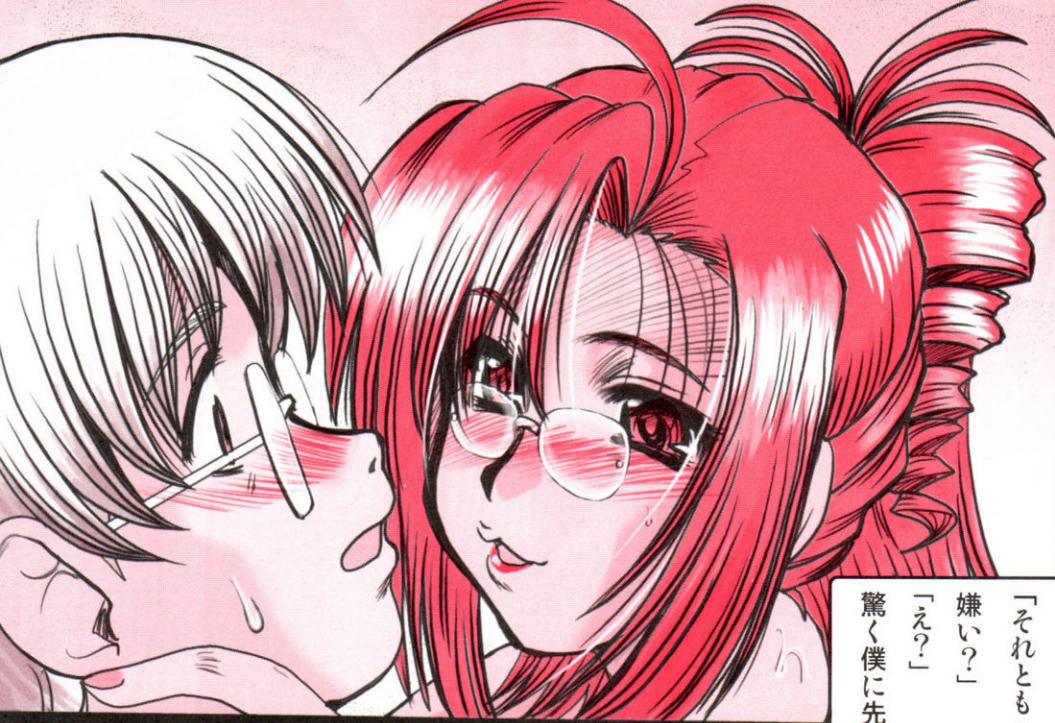
「だって夫婦間のケンタイキには程よい刺激が必要だつて  
『マニュアル』に書いてあつたからこうすれば桂くんが喜んで  
くれるかな?って思ったの」

そういうばー時まほちゃんとフーゾクがどうのつて言つて

調べてたつけ:

あきれる僕を尻目に先生はいそいそと準備を始めた。





「それとも…桂くんはこういうのは嫌い?」  
「え?」

驚く僕に先生は妖しく唇を重ねて来た



「ん…んん…」  
硬直したままの僕の舌を吸い上げ  
みずほ先生は僕の膝に股がり  
ながら



「やっぱり思つた通り桂くんも  
感じたのね？」  
服を脱がされタオル一枚になつた  
僕のモノをみて全裸になつた  
みずほ先生は嬉しそうに笑つた。



「だつていつも以上に桂くんのオチンポ  
固くて大きくなつてるわよ」  
そう言つとはち切れそなう僕のイチモツに  
みずほ先生は愛おしそうに頬擦りした

「せ、先生そんなに弄らないでよ、  
僕だつてそんな事されたら我慢出来  
無くなるよ」

堪らず息が荒くなつて来る。

「桂クン一体どうして欲しいの?  
ちやんと言わないと先生分からなゐわ  
悪戯っぽく微笑むとみずほ先生は

更に肉棒を遊び続けた。

「フフフ嘘よ♥こんな美味しそうなオチンポ  
見ていたら先生もう我慢出来ないわ  
そう言うとみずほ先生は僕の肉棒を美味し  
そうにしゃぶり始めた

「それじゃあマニュアルにあった  
テクニックをしてあげるわね？」  
そう言うとみずほ先生はむき出しの  
股間を僕の太腿に擦付けて来た

太腿から陰毛の擦付けられる  
シャリシャリとした感触と一緒に  
なにか暖かくて柔らかい感触が  
伝わって来る

「どお？ 桂くん気持ちいい？」





「そうだ、これを身体に塗るともつと気持ちよくなれるってマニュアルにも書いてあつたし…」

「先生が早いかみすほ先生は身体中にローションを塗りたくり始めた

「先生：本当にマニュアルにそんな事まで書いてあるの？」

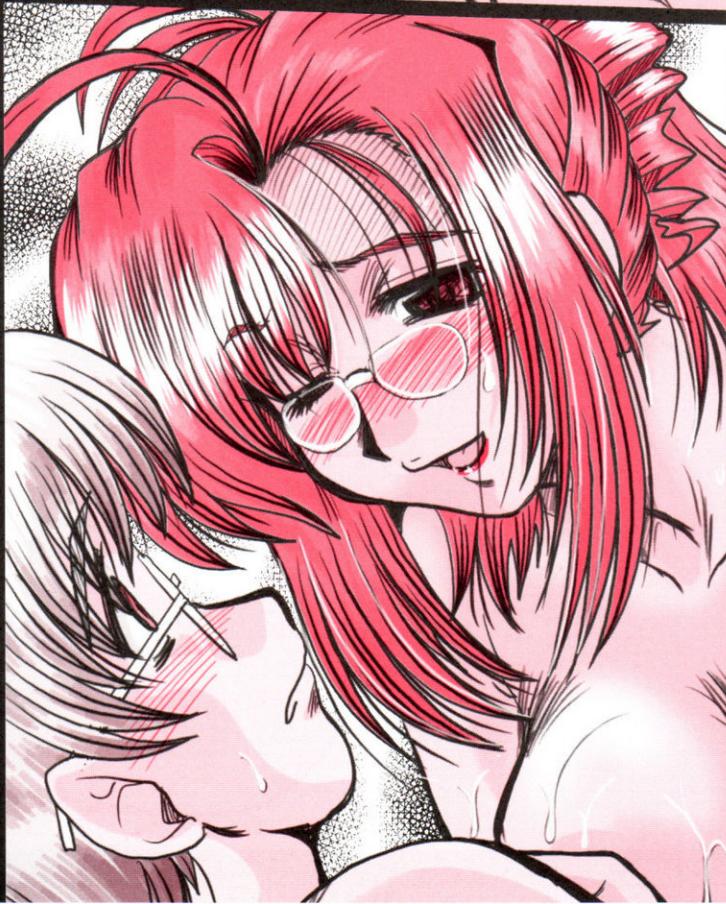


「フフフ♥そんな事どうでもいいじやない」  
ローションでヌルヌルになつた豊満な身体を  
ぴつたりと密着させてみずほ先生はいやらしく  
腰をクネらせ始めた



ヌチャクチユ

僕の身体に擦付けられた先生の股間からはいやらしい  
水音がたち始めみずほ先生の息が荒くなつて来る  
「ハアハアどう? 桂くん気持ちいいでしょ?」



「んッんんッはああ：桂クーン」

鼻にかかる甘い声を出しながら  
みずほ先生は一生懸命腰をくねらせる  
「せ、先生…」

ピチャペチャチユバツ  
大きなお尻を僕に向けてみずほ先生は  
足の指一本まで丁寧になめてくれた  
「ホラ桂くんこうしたら：ウフフ♥」  
「ううつ！せ、先生エ…」





「桂クンの美味しいオチンポもつと  
みずほに味あわせて♥」

大きくて柔らかいのに形崩れしない  
おっぱいで僕の肉棒をサンドイッチ  
したみずほ先生はぺろぺろと  
その先端を舐め始めた。

ジユルツチュパッ！

肉棒にいやらしく絡み付くみずほ先生の舌は次第にその根元のナツツまでもを刺激する様になつてきた

「ああッせ、先生とつても気持ちいいよ」



ローションで全身ヌルヌルになり滑りやすくなつた身体を利用し尻の穴までも舌先で

刺激するみずほ先生。

「先生それ以上されたら僕本当にもう射精しちゃうよ  
「ウフフ駄目よ♥まだ射精しちゃ駄目♥」

「出すのなら先生のオマンコの中にイッパイ出してちょうどいい

優先事項よ♥」

そう言うとみずほ先生はそのムツチリとしたお尻を僕に差し出し

僕は肉棒をみずほ先生の膣腔にあてがつた

「そ、それじゃあ先生行くよ」

ヌブヌブツ

「はああン桂クンの固くて太いオチンポが  
入って来てる♥」

「いいっ…桂クン素敵よ！」  
僕は肉棒で膣肉を擦り上げ奥へ奥へと突進んで行く





「先生どうです？お風呂場で生徒にバツクから  
挿入されるのって気持ちいいんですか？」

貫かれながらみずほ先生は返事をした  
「いいイイ：凄くいいのオ：」

「ああッ嬉しいッ桂クンもつと激しく  
みずほのオマンコズボズボしてえ♥」  
普段からは想像出来ない様な卑猥な  
言葉を口走りながらあえぐ先生



ぬちやぶちゅ  
膣腔からいやらしい水音をたて

みずほ先生は夢中になつて腰を動かした

「はあん桂クン凄く感じちやう♡  
オマンコとつてもいいのぉ」

「これがあのみずほ先生だなんてね  
教室のみんなに見せてやりたいよ」

あきはてた僕の一言に先生の肉壺は  
更に激しく収縮した。

「嫌あんそんな事言わないでえ♡」



「凄いッ凄いよ先生のオマンコッ！いつも以上に  
こんなに締め付けて来るなんて」  
僕はみずほ先生の腰をつかみ、ぐいぐいと回転  
させながら肉棒そのものを子宮口にぶち当てる



「あッああうう素敵よ桂クンもう頭が  
どうにかなつちやいそう」  
みずほ先生はローションと汗で身体中  
ヌルヌルにさせた裸身を二つ折りに  
しながらもくねらせた。



みずほ先生はその美貌を  
真っ赤に上気させ官能的な  
その肢体をのけぞらせた。

「け、桂クン来てツ  
桂クンの精液欲しいつ  
欲しいのオツ！」

限界に達した僕の肉棒は一段とふくれ  
あがり 先生の肉壺がすべてを搾り取る  
かの様にひと際収縮した

「ううッ」

耐え切れず僕はみずほ先生の  
股中にすべてを放った  
「はああつい、イクウ～つ！」



ビチャヤ…ペチョ…  
「桂くん一杯出たわね。やっぱりこういうのも  
たまにはいいでしょ？」  
尿道に残った精液を愛おしそうに舐めながら  
みずほ先生は笑った  
「…先生、それでも銀河連盟のマニュアルって  
どこかおかしいですよ」



*For Adult Only*  
**F-55**